

まちの タカラ

謎に包まれた教昊寺きょうこうじ ～資料ひもとく「教昊寺を語る会」～



▲左:発掘調査で出土した瓦。右:石倉家で所蔵しているせんぶつ（寺院の内壁等を飾る型押しかたおしの仏像）で、安来市指定文化財です。
◀神蔵神社で、心礎こころいしに使用された石について解説する石倉さん。

7世紀末（西暦690年頃）の飛鳥時代、宇賀荘地区の野方町にある寺院が建立されました。名前は「教昊寺」といい、「出雲国風土記」に記載のある11カ所の寺院の中で唯一名前が記された寺です。この寺は教昊という僧侶が建立し、五重塔があるとも記されています。

教昊寺は謎の多い寺院で、古くから研究が行われているものの、その正確な場所や寺の構造が判明していません。現在では、塔心礎（上に神蔵神社が祭られている）の存在や、周辺地の発掘調査で瓦が大量に出土することから、教昊寺は神蔵神社付近にあったのではないかと推定されています。そんな風土記に名を残した教昊寺を町の宝として大切にしようと思えたのが「教昊寺を語る会」です。会では、教昊寺に関する勉強会を行ったり、教昊寺に関連がある史跡等への研修旅行を実施したりして知識を深めています。

教昊寺を語る会の石倉貞文会長は、神蔵神社に興味を持った南小学校2年生に、生活科の時間で話をするなど精力的に活動しています。石倉会長は「伝承は残っていませんが、柱の跡等が発見されれば、どんな建物だったか細かく分析できます。今分かっていることとあわせ、大切に語り継いでほしいと思います」と話していました。

編集後記

安来市の人口と世帯数 R5.5.31現在

人口合計 / 36,062人
(男:17,351人 女:18,711人)
世帯数 / 14,241世帯

▼安来市小学校陸上大会を取材していたら、5種目で6つもの新記録が生まれました。4年ぶりに観客の入場と児童の声出し応援が可能となり、これが新記録続出の大きな要因に感じられて仕方ありません。やっぱり応援は、選手の皆さんに大きな力を与える素晴らしいものだと思えて認識することができました(け)
▼田植えを行う早乙女、リズムを作る太鼓や笛・唄などで華やかな比田の花田植え。囃子と踊りで観客の耳目を魅了させた頭打は、追神自治会の追神頭打供盛団が実施しました。1カ月かけて練習を重ねてきた頭打。手の甲や腕を使い、房の付いた太鼓のバチをくるくると回しながら練り歩く様子は壮観でした(岩)



●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等については、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。